

働きながら最先端の学識と研究能力・実践力を修得する

生活と科学を結ぶオンライン大学院

人間総合科学大学大学院

こころ・からだ 心身相関の探究



人間総合科学研究科

心身健康科学専攻

通信制

修士課程 ┌ 一般履修プログラム
└ 健康情報マネジメント養成プログラム

博士後期課程



本冊子は概要紹介となります。

詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.human.ac.jp>

2023

文部科学省認可

Guide Book

学長挨拶：新しい学問領域の創造

人間に関わる多様で複雑な問題に対し、 統合的・先端的な研究アプローチを

最近、情報技術の加速度的な発展や、AI (Artificial Intelligence) やIoT (Internet of Things) の登場が、ポストヒューマンの時代を創るかもしれないという予測がささやかれています。このような時代を迎えるにあたって、今、「人間」の本質をより学際的・統合的に見直す必要に迫られているのではないのでしょうか。

本学の特色であり全学のプログラムの核に据えている「心身健康科学」は、人間に関わる多様で複雑な問題に対し、統合的・先端的なアプローチをしています。

人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 心身健康科学専攻（修士・博士後期課程）では、心と身体の有機的関連性の探求から、心身の健康に関する総合的な研究を行い、社会で指導的な役割や先駆的な領域を果たす人材を開拓する人材を養成しています。

AIやIoTが話題になっている今、これからの生涯健康や持続可能性を目指す人類にとって、心身相関の科学の重要性がより一層認識されるでしょう。



学校法人 早稲田医療学園 学園長・理事長
人間総合科学大学 学長

久住 眞理

人間総合科学研究科の研究領域



建学の精神

人は、心と身体が相関しており、社会的生き物である。

しかも、有史以来、進化発展を続けている。

21世紀を力強く生きるためには、

新しい展望と視座に立って、

一人一人がしっかりした価値観を持ち、

未来を切り拓く自己決定能力と

勇気を持たなければならない。

ここに、人間を「こころ」「からだ」「環境・社会」の面から追求し、

学際的に総合して科学的に探究する必要がある。

人間総合科学大学を創設し、

あらたな学問の追求と統合により、

真に人間を理解し、自立と共生の心を培い、

活力あふれる創造性と豊かな人間性を育む。

2000年 4月

創立者 **久住 眞理**

挨拶



人間総合科学大学 副学長
人間総合科学研究科 研究科長 鈴木はる江

人間総合科学大学大学院人間総合科学研究科 心身健康科学専攻(修士・博士後期課程、通信制)は、心と身体が有機的に関連する心身相関の科学的仕組みを探究し、人間の心身両面の健康の保持・増進に寄与する知識の蓄積と社会への発信に取り組んでいます。超高齢社会に突入する一方で、IoTやAI技術の急速な発展に伴い様々な問題も生まれ、改めて人間関係や人間性理解の重要性が認識されています。本研究科では、多分野の社会人学生が自由に意見交換・討論できる学習環境のもと、心身健康科学という学際的、総合的な研究に切磋琢磨して取り組んでいます。実生活や仕事で直面している問題について、心身健康科学の視点で研究し、「より良く生きる知恵」の創出に挑戦していこうではありませんか。



心身健康科学専攻 専攻長 小岩信義

心身健康科学専攻は、人間の「心身相関」に焦点をあてて、人類の永遠のテーマである「健康」や「幸福」等の実現に貢献できる学問知を創造し、社会に発信することを目指しています。本専攻では大学院生が仕事をしながら学修・研究を継続して修了できるよう、皆さんをサポートする独自のシステムを構築し、研究指導のノウハウを蓄積してきました。入学後は、豊富な経験を持った研究指導教員の皆さんと深い議論を繰り返すことで、実生活や仕事を通して日々遭遇している事象の中に、心身の健康に関わる本質的なテーマを見出して、これを斬新なアプローチで探求していきます。

大学・研究科の教育研究上の目的

【人間総合科学大学】

一よりよく生きるための知恵(Knowledge for well-being)の創出—

人間総合科学大学は、教育基本法及び建学の精神に基づき、深く人間を理解し、自立と共生の心を培い、時代を切り拓く新しい展望と視座に立って、わが国の発展、国際社会に貢献しうる創造性豊かな活力あふれる人材の育成を目的とする。

【人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科】

人間総合科学大学大学院は、人間総合科学大学の教育の目的に則り、「人間」をさらに学際的・統合的に追究し、より深い専門的知識を持ち研究できる人材を育成することを目的とする。

専攻の特徴

1.通信制大学院トップクラスの修了率

充実した学修環境が学位取得をバックアップします。
修士437名、博士47名(2020年度まで実績)が学位を取得し、開設以来高い修了率を維持しています。

本学(修士課程)

約80.7%

2.「こころ」と「からだ」のつながりを探求

社会や文化を踏まえ、こころとからだの両側面から総合的な人間理解に向けてアプローチします。そして、心身健康科学の視点から学際的、横断的に研究し、「よりよく生きるための知恵」を創出します。

3.インターネットを活用して学位取得

本学専用のポータルサイトで展開されるeラーニングシステムにより、パソコン・スマートフォン・タブレットを用いて、いつでもどこでも学修に取り組むことができます。

4.社会人学生に配慮した研究スタイル

修士課程では、社会人学生の幅広いテーマ設定に対応し、研究の最終成果物として、新知見を探究する「修士論文」の他に、社会生活に見いだされる特定課題をテーマとして扱う「特定課題研究報告書」を選択することができます。選択割合は、修士論文：特定課題研究報告書=約1:5です(年度により変動します)。

5.全ての教員がバックアップサポート

博士後期課程では、指導教員の他に副指導教員も指導にあたります。また、修士課程・博士後期課程のいずれもポータルサイトを介した質問や中間発表会などの機会を通して、学修・研究内容に対して全ての教員の助言とサポートを受けることができます。

心身健康科学専攻【通信制】

一般履修プログラム

心身健康科学に関する「研究力」の育成

「こころ」と「からだ」の有機関連性を考究し、心身の健康に関する専門知識を総合的に教授し、「生きる力」としての、洞察力、探究力、問題解決能力、創造力を育み、研究の徒となり得る人材、社会において指導者的役割を果たす人材を育成します。

※本専攻には研究力養成に主眼を置いた[一般履修プログラム]の他に、P6-7の[特別履修プログラム(健康情報マネジメント養成プログラム)]が用意されています。院生のニーズに合ったプログラムを履修できます。

カリキュラム 一般履修プログラム

科目履修・研究のスタートとして、「こころ」と「からだ」の有機関連性の理解を深めるために、研究科の根幹(コア)として「心身健康科学特講」等、コア科目・必修科目を履修します。また、選択必修科目・選択科目は各自の研究を進めていくうえで必要な科目を履修します。1年次または2年次に選択必修科目を2科目以上、選択科目を4科目以上履修します。

区分	科目名	配当年次	開講時期	履修方法	単位数
コア科目(必修)	心身健康科学特講	1	前期	T・S	2
必修科目	心身健康科学特論Ⅰ	1	前期	T・S	3
	心身健康科学特論Ⅱ	1	後期	T・S	3
	心身健康科学特論Ⅲ	1	後期	T・S	3
選択必修科目 (6単位以上)	健康科学・疫学特講	1・2	後期	M	3
	生命文化特講	1・2	前期	M	3
	高次脳機能学特講	1・2	後期	M	3
	心身機能観察特講Ⅰ	1・2	後期	T・S	3
	心身機能観察特講Ⅱ	1・2	前期	T・S	3
	心身機能観察特講Ⅲ	1・2	後期	T・S	3
	ストレス学特講	1・2	後期	T	2
選択科目 (8単位以上)	認知脳科学特講	1・2	前期	T	2
	ライフサイクルと健康特殊講義	1・2	後期	T	2
	心身免疫学特殊講義	1・2	前期	T	2
	精神分析特講	1・2	後期	T	2
	比較文化特講	1・2	前期	T	2
	健康文化論特殊講義	1・2	前期	T	2
	発達心理学特論	1・2	後期	T	2
	心身医学特論	1・2	前期	T	2
	老年心理学特論	1・2	前期	T	2
	健康栄養学特殊講義	1・2	前期	T	2
	食文化特講	1・2	後期	T	2
	文化人類学特講	1・2	前期	T	2
	応用健康科学特講	1・2	後期	T	2
	体性神経科学特講	1・2	後期	T	2
	データサイエンス特論	1・2	後期	T・S	2
研究科	心身健康科学研究Ⅰ	1	通年	R	3
	心身健康科学研究Ⅱ	2	通年	R	3

修了要件

休学、停学期間を除いて2年以上在学し、次のとおり授業科目について31単位以上修得し、かつ修士論文または特定の課題についての研究成果の審査を通過し最終試験に合格すること。

1 コア科目(必修)	2単位	4 選択科目	8単位以上
2 必修科目	9単位	5 研究指導科目	6単位
3 選択必修科目	6単位以上		

T: テキスト履修 M: メディア履修 T・S: テキスト履修+スクーリング R: オンライン指導+面接指導

※カリキュラムは2022年4月現在のものであり、変更する場合があります。

授業 Pick Up

必修 心身健康科学特講

心身健康科学という学問の全体像を把握し、それにもとづく修士課程での学修と各自の研究の位置づけを見出すことができますようにします。

必修 心身健康科学特論Ⅰ

心と身体の有機関連性を心身相関といいますが、この科目では脳と脳の活動を支える身体機能の基本的な仕組みや心身相関の神経科学的な仕組みについてオンラインとスクーリングにて学びます。

必修 心身健康科学特論Ⅱ

心身健康科学の研究を進めるために必要となる研究方法や統計解析手段の基本的な考え方をオンラインと教材を用いたディスカッションを行いながら学びます。他者の研究の優れた点や問題点を評価する力を養います。

必修 心身健康科学特論Ⅲ

各自の研究計画の中に心身健康科学の視点・考え方をどのように入れていくかについてオンラインと教材を用いたディスカッションにより考えます。

選択必修 健康科学・疫学特講

疫学は人間集団が遭遇する健康問題をどのように理解し対処するかに関する知識と実践の体系のひとつです。この健康科学の方法論の1つである疫学についてその歴史や研究方法について学修します。

選択必修 生命文化特講

先端医療技術の発展は臓器移植、再生医療などに進歩をもたらしましたが、同時に多くの生命倫理上の問題も生み出しています。生命科学、医学、心身健康科学の知識と理解のもと法学的、哲学的、倫理的な視点から生命倫理について探究します。

選択必修 高次脳機能学特講

人は自分自身を含めた周囲の「環境」を理解し、今までの知識や経験をもとに適切な行動を判断し、実行します。この知的・認知能力を可能とする脳神経機構について、最新の脳神経科学研究の成果を参考に学修します。

選択必修 心身機能観察特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

心身の有機関連性に対する理解を深めるため、実験・観察を通して、ストレス刺激に対するヒトの自律神経反応やバイオマーカーの変化、脳神経活動などを観察します。

博士後期課程との共通科目

詳しくは、Webシラバスをご参照下さい。



https://www.human.ac.jp/syllabus_view/

修士課程 一般履修プログラム

入学から修了まで

テキスト履修 (T)

テキスト履修では単位を修得するために「自宅学修 → 課題レポート提出および他の院生とのオンラインでの意見交換 → 科目修了試験」の順に学修を行います。また、科目修了試験は会場で受験する形式ではなく、オンラインでレポートを提出します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

レポート提出 (複数回)
オンラインでの意見交換

科目修了試験

合格後 単位認定

メディア履修 (M)

メディアを使った履修では、テキスト履修とビデオ履修を並行して実施します。ビデオ履修ではVOD (Video On Demand) により学修を進めます。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

レポート提出 (複数回)
オンラインでの意見交換
VODによるビデオ履修

科目修了試験

合格後 単位認定

テキスト履修+スクーリング履修 (T・S)

コア科目 (必修)、必修科目及び実験実習科目 (選択必修) では、テキスト履修に加えてスクーリング (対面式授業) を受講します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

レポート提出 (複数回)
オンラインでの意見交換

対面式授業

科目修了試験

合格後 単位認定

研究指導 (R)

修士課程では、年間5回 (2年間で10回) の面接指導 (合同ディスカッション時を含む) のほか、中間報告会の発表などを通して修士論文または特定課題研究報告書を完成させます。

1年次

2年次

指導教員
決定

研究テーマ
の決定

研究
中間報告

研究中間
報告会

修士論文が
特定課題研究
報告書かの
選択

研究成果
提出

・審査
・口頭試問

研究
発表会

研究テーマ例

修士論文

- ・大学生における疲労感と食塩摂取量の関連
- ・訪問看護師の職業性ストレスと心身の健康
- ・高校男子サッカー選手における運動時心拍数と自覚的な体調および心理状態との関連
- ・看護師の手指衛生時に生じる意図的違反行為に對し影響を及ぼす身体的、精神的、文化的要因の検討

特定課題研究
報告書

- ・短時間睡眠と疾病発症リスクとの関連 —エビデンスに基づくリスク評価—
- ・非特異的腰痛の成因と効果的介入法の検討—心身健康科学の視点から—
- ・理学療法士養成校の学生にかかるストレスの時期と特徴
- ・産後うつ病の予防に必要な支援に関する文献検討

詳しくは、ホームページをご参照下さい。



<https://www.human.ac.jp/mh/>

修了・学位授与 修士 (心身健康科学)

称号：心身健康アドバイザー[®]

※日本心身健康科学会より取得可能

心身健康科学専攻【通信制】

健康情報マネジメント養成プログラム

NEW

職場や健康支援の現場でヘルスデータを活用できる「実践力」を育成

心身健康科学を基に、健康関連情報のマネジメントに関する高度かつ専門的な知識・技能を有し、情報技術革新によって到来するデータ駆動型社会におけるヘルスプロモーターとして、職場や地域などにおいてリーダーとなるプロフェッショナル人材を育成します。修了者は、修士(心身健康科学)の学位に加えて、日本心身健康科学会より、「健康情報マネジメントリーダー」®の称号を取得することができます。

修得するのは高度な「3A (スリーエー)」スキル

心身健康科学の知見を背景に、良質な「ヘルスデータ」を高度かつ専門的な技能や知識を用いて収集し、評価・活用できる実践的なスキルを修得します。

Access



適切にデータへアクセス
生体及び健康に関するデータを適切なタイミングと方法によって正しく入手できる能力

Assessment



科学的に評価
取得したデータを情報として整理し、科学的に評価できる能力

Advice



社会へ還元
評価した情報をもとに心身の健康増進にむけてアドバイスできる能力



心身の健康に貢献する高度なデータ管理スキル
ヘルスプロモーターに必要な実践的スキルを修得

カリキュラム 健康情報マネジメント養成プログラム

全て必修科目(※1)です。

区分	科目名	配当年次	開講時期	履修方法	単位数
心身健康科学の基礎を学修する	心身健康科学特講	1	前期	T・S	2
	心身健康科学特論Ⅰ	1	前期	T・S	3
	心身健康科学特論Ⅱ	1	後期	T・S	3
	心身健康科学特論Ⅲ	1	後期	T・S	3
ヘルスデータ管理の基礎を学修する	サイエンスコミュニケーション学	1	通年	S	1
	ストレス学特講	1・2	後期	T	2
	健康科学・疫学特講	1・2	後期	M	3
ヘルスデータ管理を体験学習	健康情報計測学	1	前期	S	1
	心身機能観察特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(※2)	1・2	前/後	T・S	3
	健康情報処理学	2	前期	T・S	2
ヘルスデータ管理をフィールド実践	ストレス評価学	1	後期	T・S	2
	健康支援演習	2	通年	S	1
	ストレスマネジメント演習	2	通年	S	1
	心身健康科学研究Ⅰ	1	通年	R	3
	心身健康科学研究Ⅱ	2	通年	R	3

※1 上記必修科目以外にも履修上限単位数を超過しない範囲で「一般履修プログラム」の選択必修領域、選択領域(P4参照)から科目を履修することができます。

※2 心身機能観察特講は、各院生の研究課題に応じて、Ⅰ-Ⅲの中からいずれか1科目以上を履修します。

修了要件	履修内容	単位数
1	心身健康科学の基礎	11
	ヘルスデータ管理の基礎	7
2	ヘルスデータ管理の体験学習	7
	ヘルスデータ管理のフィールド実践	8

T:テキスト履修 M:メディア履修 T・S:テキスト履修+スクーリング S:スクーリング R:オンライン指導+面接指導
※カリキュラムは2022年4月現在のものであり、変更する場合があります。

詳しくは、Webシラバスをご参照下さい。



https://www.human.ac.jp/syllabus_view/

修士課程 健康情報マネジメント養成プログラム

入学から修了まで

テキスト履修 (T)

P5 流れ図参照

「ストレス学特講」などのテキスト履修では単位を修得するために「自宅学修 → 課題レポート提出および他の院生とのオンラインでの意見交換 → 科目修了試験」の順に学修を行います。また、科目修了試験は会場で受験する形式ではなく、オンラインでレポートを提出します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

メディア履修 (M)

P5 流れ図参照

「健康科学・疫学特講」などのメディアを使った履修では、テキスト履修とビデオ履修が並行して実施されます。ビデオ履修ではVOD (Video On Demand) により学修を進めます。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

テキスト履修+スクーリング履修 (T・S)

P5 流れ図参照

「心身健康科学特講」「心身健康科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「健康情報処理学」「ストレス評価学」などでは、テキスト履修に加えてスクーリング(対面式授業)を受講します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

スクーリング履修 (S)

「サイエンスコミュニケーション学」「健康情報計測学」「健康支援演習」「ストレスマネジメント演習」では、本プログラム登録院生全員の合同参加による集中スクーリング(※1)と、担当教員との個別スクーリング(※2)を受講します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

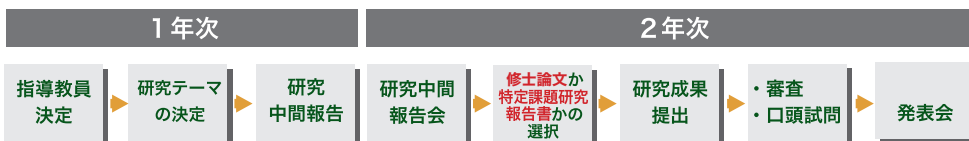


※1：大学院生全員参加による合同授業です。

※2：各大学院生が修得したい専門内容に応じて担当教員から個別に学びます。

研究指導 (R)

修士課程では、年間5回(2年間で10回)の面接指導(合同ディスカッション時を含む)のほか、中間報告会の発表などを通して修士論文または特定課題研究報告書を完成させます。



研究テーマ例

- ・勤務形態の条件が共働きの母親のストレス反応に及ぼす影響
- ・高齢者の閉じこもりを解消する支援の研究—「こころのフレイル」解消を目指して—
- ・更年期女性の睡眠問題への取り組み—運動習慣改善の健康情報マネジメント—
- ・看護実習の違いが看護学生の職業的暗黙知の気づきに及ぼす影響
- ・助産における介入、不介入の意義—呼吸・発声を中心として—
- ・笑い笑顔が心身に与える影響—心身健康の観点から—

修了・学位授与 修士(心身健康科学)

称号：心身健康アドバイザー[®]

※日本心身健康科学会より取得可能

専門領域称号：健康情報マネジメントリーダー[®]

※日本心身健康科学会より取得可能

詳しくは、ホームページをご参照下さい。



<https://www.human.ac.jp/mh/>

心身健康科学専攻【通信制】

教育研究上の目的

「こころ」と「からだ」の有機的関連性を支える法則性について深い学識と高度な研究遂行能力とを養い、学際的・統合的な視点と姿勢をもって自立して研究活動のできる人材と、社会において先駆的な領域を開拓できる人材を養成します。

カリキュラム

1年次には、必修科目である「心身健康科学特殊講義」を履修し、心身健康科学における心身相関の科学、健康科学、統合・学際領域という研究深化の視点を養うとともに、院生の研究テーマにつなげる端緒を導きます。「心身健康科学特殊演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」はWeb会議システムを使用するセミナーです。選択科目は13科目開設され、各自の研究テーマに応じ、科目を履修します。

区分	科目名	配当年次	開講時期	履修方法	単位数
コア科目 (必修)	心身健康科学特講	1	前期	T・S	2
必修科目	心身健康科学特殊講義	1	前期	T・S	2
	心身健康科学特殊演習Ⅰ	1	通年	EX	2
	心身健康科学特殊演習Ⅱ	2	通年	EX	2
選択科目 (2単位以上)	心身健康科学特殊演習Ⅲ	3	通年	EX	2
	健康増進科学特殊講義	1・2	前期	T・S	2
	科学哲学特殊講義	1・2	後期	T・S	2
	心身医学特論	1・2	前期	T	2
	生命文化特講	1・2	前期	M	3
	心身免疫学特殊講義	1・2	前期	T	2
	認知脳科学特講	1・2	前期	T	2
	神経内分泌機能学特殊講義	1・2	後期	T	2
	健康栄養学特殊講義	1・2	前期	T	2
	ライフサイクルと健康特殊講義	1・2	後期	T	2
	健康文化論特殊講義	1・2	前期	T	2
	発達心理学特論	1・2	後期	T	2
	老年心理学特論	1・2	前期	T	2
体性神経科学特講	1・2	後期	T	2	
研究指導 (必修)	心身健康科学特別研究指導Ⅰ	1	通年	R	2
	心身健康科学特別研究指導Ⅱ	2	通年	R	2
	心身健康科学特別研究指導Ⅲ	3	通年	R	2

修了要件

休学、停学期間を除いて3年以上在学し、次の通り授業科目について必修科目を含め18単位以上を修得し、かつ博士論文の審査を通過し最終試験に合格すること。
 1 必修科目 10単位
 2 選択科目 2単位以上
 3 研究指導科目 6単位

修士課程との共通科目

T：テキスト履修 M：メディア履修 T・S：テキスト履修＋スクーリング
 EX：演習（Web会議セミナー） R：オンライン指導＋面接指導

※カリキュラムは2022年4月現在のものであり、変更する場合があります。

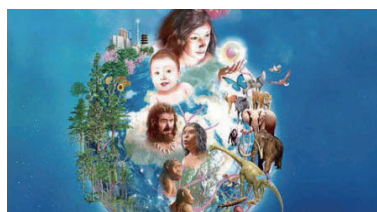
授業 Pick Up

必修 心身健康科学特殊講義

心身健康科学という専門領域の特徴を活かした研究課題と計画を考究し、心身相関の現象を観察する上で必要となる実験・調査研究方法と解析手法を理解し活用できるよう学修を進めます。そして、心身健康科学の立場から仮説を立てて実験・調査研究のモデルを立案する能力を養います。

必修 心身健康科学特殊演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

院生と教員によるインターネットを利用したセミナー（Web会議）です。博士レベルの心身健康科学研究を実施するために必要となる独創的かつ科学的な研究遂行能力を修得することを目的とし、Ⅰでは自らの研究遂行に必要な国内外の文献の読解力向上と文献検索力、問題発見能力、プレゼンテーション能力を養います。Ⅱ・Ⅲでは院生各自の研究計画や進捗状況を発表し、院生と教員が一緒になってディスカッションを行います。



詳しくは、Webシラバスをご参照ください。



https://www.human.ac.jp/syllabus_view/

博士後期課程

入学から修了まで

テキスト履修 (T)

P5 流れ図参照

テキスト履修では単位を修得するために「自宅学修 → 課題レポート提出および他の院生とのオンラインでの意見交換 → 科目修了試験」の順に学修を行います。また、科目修了試験は会場で受験する形式ではなく、オンラインでレポートを提出します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

メディア履修 (M)

P5 流れ図参照

メディアを使った履修では、テキスト履修とビデオ履修を並行して実施します。ビデオ履修ではVOD (Video On Demand) により学修を進めます。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

テキスト履修+スクーリング履修 (T・S)

P5 流れ図参照

心身健康科学における心身相関の科学や健康科学について、学際的・統合的に考察する視点を養うため、必修科目と選択科目の一部でスクーリング (対面式授業) が実施されています。テキスト履修に加え、スクーリングを受講し、科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

演習 (EX)

演習は、大学院生と全教員を交えたWeb会議システム (インターネットを利用) を使ったセミナーです。演習授業に参加し、総合評価 (プレゼンテーションと質疑応答の内容) で合格の基準に達すると単位が認定されます。



研究指導 (R)

博士課程後期課程では、月1回の個別面接指導のほか、必要に応じて対面での指導や、オンラインでの個別指導が随時実施されます。



研究テーマ例

- ・ マタニティヨーガが妊産褥婦に及ぼす影響-心身健康科学の視点から-
- ・ 小児慢性疾患を抱える若年者の小児期体験に関わる心身相関
- ・ 社会的シグナルがヒトの衝動性制御機能に及ぼす影響
- ・ 課題評価の予告が心理および自律神経反応に及ぼす影響
- ・ 血液透析患者の身体活動量と関連要因 -心身健康科学の視点から-
- ・ 健常男性の下肢全面への触刺激が心身に及ぼす影響-軽擦速度との関連
- ・ 看護大学生とポート部大学生のインフルエンザ予防行動に関連するインフルエンザ予防知識と心理的要因の探索

詳しくは、ホームページをご参照下さい。



<https://www.human.ac.jp/mh/>

修了・学位授与 博士 (心身健康科学)

修了生の声(修士課程)

関節リウマチ患者様の心身と病態の関係性について研究をしました。

私は、関節リウマチに興味があり、日本リウマチ財団に登録される理学療法士として勤務している中、自身の治療技術を見つめ直すことや、外部への発表の重要性に気が付き、研究をしたいと強く思いました。

関節リウマチは心身症の一つと言われ、「心」と「体」が疾患の状態に大きく関わってきます。特に症状が悪化すれば薬の量を増やす現代医療では、副作用から満足な治療を行えない患者様が存在しています。

このよう増薬ができず、状態が悪化する患者様に対して、「心」や「体」から状態を改善させたいと強く思い、この研究分野が行える学部を調査した所、人間総合大学大学院・心身健康科学専攻が合致し、通信で学べ、仕事との両立が可能なので、志願致しました。

入学してからは、関節リウマチ患者様の心身と病態の関係性について、研究させて頂きました。先生方からは、私の研究の細部まで他分野の方でも伝わるように熱心にご指導頂きました。

また、私をはじめ、同期生は幅広い年齢層が在籍しておりました。

大学院の強みである働きながら学業を両立できる通信制だからこそ、研究したい分野を深く学ぶことができたのだと思います。



心身健康科学専攻 心身健康科学専攻 修士課程
富田 晋太郎さん (2022年 3月 修了)

「一步一步進めていけば、必ず完成にまでたどり着ける」と見守ってくれた先生には感謝しかありません。

学修や研究をしたいと思った時、是非本学の先生方の話を聞いてみてください。年齢や職種、学修への不安等は、学びたいと思う強い気持ちがあれば乗り越えられると思います。何よりも本学にはその気持ちをサポートしてくれる、素晴らしい先生方が在籍しています。

心身健康科学という新しい学問領域を指導している先生方のことからだに対する考えや思いを聞いてほしいです。私は今まで自分が思っていた「こころ」「からだ」がどんなに狭い範囲でしか見えてなかったのかショックを受けました。それと同時に、こんなに素晴らしい話を聞けるのか、と先生方の話を聞く度に感銘を受けました。是非、入学を検討している皆様にもこの気持ちを感じていただきたいです。

在学中は学生同士のつながりはほぼ無いと思っていましたが、通信制だからこそその協力の形があり、助け合いのこころを教えてくださいました。様々な職種の方がいるので、1つの考えで結論に至るのではなく、それぞれの見解や意見が聞けます。また、視野も広がり、ディスカッションも盛り上がります。普段の生活では接点のない職種の方たちと一緒に勉強ができ、出会いに感謝するとともに、本学に入学して本当に良かったと思うばかりです。



心身健康科学専攻 修士課程 一般履修プログラム
野上 真央さん (2021年 3月 修了)

学ぶことの楽しさを味わえ、 成長に導いてくれる環境がある大学院

人生100年時代の今、間もなく70歳を迎える私は、この先の時間をどのように生きればよいのかを考えるようになりました。その背景には、学部卒業後に取り組んできた高齢者の地域活動を通して、様々な人生経験を持ちながらも、今なお生き方を模索している高齢者が多くいることを知ったことが理由の一つでした。

この方たちとの活動を通して、加齢に伴う身体機能の低下は抗うことはできませんが、こころや社会性までも薄れていく状況は改善できるように思えて、更に深く高齢期の生き方を見つめたいと考えるようになりました。

そんな時、大学から「健康情報マネジメントリーダー養成コース」の案内が届き、進学はこのコースに興味を持ったことがきっかけでした。そして、願書提出時には、地域活動コーディネーターとしてその成果をまとめたいたいと考えようになり入学試験に臨みました。

本校では、様々な専門分野の科目を学ぶことができます。特に、心身関連の考え方を軸にした学修は、習得後の人生を豊かにできると実感しています。更に、生活の場で役立つ情報処理技術を身につけることができ、これから(未来)の学問領域を先生方と共に楽しく学べる場だと思います。指導教員の先生だけではなく、研究内容に応じた全ての先生に学修をバックアップしていただける環境や、全国トップクラスの修了率も魅力的でした。



心身健康科学専攻 修士課程 健康情報マネジメント養成プログラム

吉岡 千代子さん (2021年 3月 修了)

修了生の声(博士後期課程)

日本の小・中・高・特別支援学校に所属する教員の職業性ストレスに関する研究を、テーマとして取り組みました。

私は、看護学部、福祉専攻科の教員として、人の健康について学生とともに向き合ってきました。現代日本は、平均寿命からみる「量」としての長寿社会を達成し、世界が経験したことがない超高齢化社会を迎え、人々が生活の質をいかに高め、よりよく生きるかを追及していく時代となりました。

このような現代において、人間をこころ・からだ・文化の面から追及し、学際的に総合して科学的に探究する心身健康科学という学問は、今後より求められその重要性は増していくと考えています。

そこで、心身健康科学という学問を学び、探求、研究を深めることによって、人々の健康を支える看護師の養成にも還元できると考え、本学大学院に進学いたしました。大学院では、修士課程から博士後期課程まで日本の小・中・高・特別支援学校に所属する教員の職業性ストレスに関する研究を、テーマとして取り組んできました。テーマは、自身が公立高等学校で教諭として勤務していた際の経験がキッカケとなっています。

指導教員の先生からは、研究仮説を明確にし、緻密な研究計画の立案、調査から得られた結果の意味、解釈など、私が研究を進めていくべきで達成していく課題を明確に示していただき、一つひとつ達成できるように丁寧なサポートを頂きました。

これらの研究を今後も、大学教員の指導に生かしていきたいと思えます。



心身健康科学専攻 博士後期課程

美濃 陽介さん (2022年 3月 修了)

沿革・組織図

人々の健康と幸福を支援する人材育成が私たちの目的です。

本学園は今日に至るまで一貫して「人々の健康と幸福を支援する人材の育成」を目的として歩みを進めてきました。「真に人間を理解し、自立と共生の心を培い、活力あふれる創造性と豊かな人間性を育む」という建学の精神のもと、教育研究を進展させ、多くの医療職者をはじめ健康支援業務に携わる人々の生涯の学習の場を築いています。

これからも社会のニーズに対応しつつ、保健医療福祉・食・栄養分野に貢献する人材の育成に努めてまいります。



沿革

1953年	東京カイロプラクティック学院の創設 <開設学科>◎本科 ◎師範科
1972年	早稲田鍼灸専門学校に改称 <開設学科>◎東洋医療鍼灸学科 1991年4月 義肢装具学科を開設し、1993年 早稲田医療技術専門学校へ
1993年	早稲田医療技術専門学校を開学 チーム医療を担う人材の育成 <開設学科>◎看護学科 ◎理学療法学科 ◎作業療法学科 ◎義肢装具学科
2000年	人間総合科学大学を開学 人間科学部 人間科学科(現:心身健康科学科)を開設
2004年	人間総合科学大学大学院を開設 人間総合科学研究科 心身健康科学専攻 修士課程を開設
2005年	人間総合科学大学 人間科学部 健康栄養学科を開設
2007年	人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 心身健康科学専攻 博士後期課程を開設 早稲田医療技術専門学校 保健学科を開設
2009年	早稲田医療専門学校を人間総合科学大学鍼灸医療専門学校に校名改称 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 健康栄養科学専攻 修士課程を開設
2011年	人間総合科学大学 保健医療学部 看護学科、リハビリテーション学科(理学療法専攻/義肢装具専攻)を開設
2013年	学園創立60周年
2016年	人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 臨床心理学専攻 修士課程を開設(2022年3月閉鎖)
2017年	人間総合科学大学 人間科学部 ヘルスフードサイエンス学科を開設
2019年	人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 心身健康科学専攻に健康情報マネジメント養成プログラムを開設

組織図

人間総合科学大学

蓮田キャンパス

人間科学部

- 健康栄養学科
- ヘルスフードサイエンス学科
(食品健康科学)
- 心身健康科学科(通信制)

岩槻キャンパス

保健医療学部

- 看護学科
- リハビリテーション学科
理学療法専攻
義肢装具専攻

人間総合科学大学大学院

人間総合科学研究科

- 心身健康科学専攻(通信制)
修士課程
博士後期課程
- 健康栄養科学専攻
修士課程

早稲田医療技術専門学校

保健学科

日本心身健康科学会

人間総合科学 心身健康科学研究所

事業提携校

- 東京健康科学大学ベトナム

海外学術提携校

アメリカ

- カリフォルニア州立大学
ロングビーチ校
- 南カリフォルニア
健康科学大学

中国

- 北京中医薬大学

タイ

- ブラパー大学

ベトナム

- ハイズオン医療技術大学

人間総合科学 心身健康科学研究所

本研究所では、人間を取り巻く環境の変化(刺激)が脳、自律神経、運動神経を介して
こころやからだ、さらには行動にどのような影響を及ぼすのかを研究・探究しています。

本研究所では、人間総合科学、心身健康科学の領域における先端的な研究を行っています。本研究所のスタッフは、得られた成果を学術団体などを通して国内外に発信するだけでなく、教材の開発や教育の場につなげて広く教え伝えています。また、心身健康科学に関わる教育プログラムを改善することや進展させることにも努めています。くわえて本研究所は、大学院教育との連携や日本心身健康科学会との共同研究等を図る場でもあり、スタッフや大学院生が中心となって、心身の相関を科学的に解明する実験研究や、地域や職場、学校、家庭をフィールドとする調査研究も実施しています。したがって本研究所は、心身相関の科学および心身健康科学の学問の発展をリードする重要な拠点として機能し、学問の開拓と普及に寄与しています。

文部科学省認可

人間総合科学大学

大学院 / 人間総合科学研究科

心身健康科学専攻(修士課程・博士後期課程)・健康栄養科学専攻

人間総合科学大学

人間科学部 / 心身健康科学科・健康栄養学科・ヘルスフードサイエンス学科

保健医療学部 / 看護学科

リハビリテーション学科 理学療法専攻・義肢装具学専攻

■蓮田キャンパス

〒339-8539
埼玉県さいたま市岩槻区馬込 1288

■東京サテライト

〒169-0051
東京都新宿区西早稲田 3-18-4

[お問い合わせ・資料請求]

TEL 048-749-6111 (日曜・祝祭日を除く 9:00~17:00)

FAX 048-749-6110

e-mail graduate@human.ac.jp

<http://www.human.ac.jp/>

人間総合

検索